

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集

公民館の新しい活動

事務局長・田原 理

4.5

- 2 トピックス 本紙 第二回編集委員会開催 特集テーマ決定
- 3 視点 「模索の日々」 新潟県教育庁生涯学習推進課・西川 昌宏
- 3 ひろば 「雪国のきずな」 妙高市・松永 久子
- 6 実践記録シリーズ 「チャレンジわんぱく」 新潟県少年自然の家・梁川一十男
- 7 サークル交流 「小国から元気と笑顔を発信！」(長岡市) / 「絵画教室におけるグループ活動」(村上市)
- 7 素顔拝見 大久保朋美さん(十日町市) / 平井 裕美さん(魚沼市)
- 8 お元気ですか 燕市・信田 節子さん
- 8 恵贈資料紹介



「男子も積極的に厨房に入るべし！」(津南町)

表紙解説

津南町公民館では3回シリーズで「男も挑戦！お手軽簡単料理教室」を開催しました。これは地元の飲食店のマスターから講師になってもらい、男性でも簡単にできる一品料理を作るもので、男子も女子もいっしょに楽しく頑張りました。

本紙 第二回編集委員会開催

特集テーマ決定

公民館月報の第2回編集委員会が3月6日(火)に新潟市中央公民館で開催され、平成24年度前期の「特集テーマ」等を協議しました。また、編集全体についての意見交換も行われました。



活発な意見交換

地域と学校ふれあい推進
新潟市担当

7月号

「関プロ新潟大会
開催1年前」

南魚沼市中央公民館
湯沢町公民館

8月号

「県公民館大会実践発表
その①」

中越地区発表者
下越地区発表者

9月号

「県公民館大会実践発表
その②」

新潟市発表者

* (氏名は敬称略 執筆者
名が記載されていない号
は調整後に決定)

○県大会(糸魚川大会)の記
録集は作成しない予定なの
で、実践発表を特集記事と
して掲載します。

○「お元気ですか」のコーナー
高齢者の元気な活動を紹
介するコーナー「お元気で
すか」は昨年5月号から掲
載されました。執筆内容が
やや固い感じがあるので、

もう少し自由に柔らかい表
現で執筆をお願いすること
にしてコーナーは継続しま
す。

地区が偏らないように原
則として中越→上越→下越
↓新潟でローテーションし
ます。執筆担当市町村で適
任者を選定していただきま
す。

○その他は継続します。

「トピックス」「視点」「実
践シリーズ」のコーナーは
継続します。「表紙写真」「ひ
ろば」「サークル紹介」「素
顔拝見」の担当市町村は下
記のとおりになっています。
10月以降については8
月に開催する第1回編集委
員会で調整し決定します。
県大会(糸魚川大会)はト
ピックスで紹介します。

○編集についてご意見を
編集について、皆様の意
見を事務局までお寄せくだ
さい。

○各コーナーの執筆担当ロー
テーションは次のとおりで
す。

9月	8月	7月	6月	5月	4月	月
燕 市	田上 町	長 岡 市	見 附 市	新発田市	津 南 町	表 紙
新 潟 市	小千谷市	村 上 市	弥 彦 村	加 茂 市	妙 高 市	ひ ろ ば
阿賀野市	五 泉 市	妙 高 市	糸魚川市	燕 市	村 上 市	サークル
三 条 市	上 越 市	長 岡 市	新 潟 市	上 越 市	長 岡 市	サークル
妙 高 市	糸魚川市	燕 市	村 上 市	見 附 市	十日町市	素 顔
上 越 市	長 岡 市	新 潟 市	胎 内 市	南魚沼市	魚 沼 市	素 顔
小千谷市	見 附 市	佐 渡 市	十 日 町 市	胎 内 市	燕 市	お 元 気

「新潟県公民館月報」 毎月15日発行 いつでも申込み受付中

公民館月報 定価1部150円 年間1,800円(いずれも送料含)

申込先 〒950-2004 新潟市西区平島1301 中野プラザ107 県公民館連合会事務局 TEL・FAX025-266-7711

視点

模索の日々

新潟県教育庁生涯学習推進課 西川 昌宏



「この職業は？」と聞かれて「社会教育主事です」と答えると、「社会教育主事？」とおうむ返しに聞き返されるのは、いつものことなのでもう慣れてしまいました。「社会」も「教育」も「主事」もそれほど難解な単語ではありませんが、これらが合体してしまふと難解な用語になってしまうようです。

かく言う私も、日ごろの自分の業務を的確に説明しようとすると、言葉に詰まってしまうことが多々あります。社会教育法には、「社会教育主事は、社会教育を行う者に専門的技術的な助言と指導を与える」とあるのですが、そもそも都道府県教育委員会の事務局に配置されている社会教育主事には、いったい何が求められているのか、具体的な像をなかなか結ばずにいます。

その答えを見つけないという思いから、平成22年の秋、国立教育政策研究所社会教育実践研究センターで開催された「社会教育主事専門講座」を受講しました。そこでは、都道府県の社会教育主事には、広域行政の担い手として、学習課題の把握と企画立案能力、調整者（コーディネーター）としての能力が求められていると教わりました。

それから1年後、今度は私が同講座の講師として本県の取組事例を発表することになり、力量不足を自覚しながらもお引き受けしました。当日は、全国から集まった熱心な受講生を前に、逆に激励されたような気がしました。そもそも1年前の自分にあんな情熱はあったのだろうか、と思いつつ…。

模索の日々は今も続いています。

H O T N E W S 掲 示 板

<関プロ記録集あります>

昨年11月18日に開催された「第52回関東甲信越静公民館研究大会 第42回関東甲信越静社会教育研究大会」合同茨城大会の記録集（報告書）が大会事務局から県公連事務局に届いています。閲覧等の希望がありましたら事務局まで連絡してください。

県公連 事務局 電話025-266-7711

<公民館総合補償制度の申し込み>

平成24年度の公民館総合補償制度がまもなく申し込みメ切になります。4/16(月)が締め切り日ですが中途加入は随時受付です。

県内の加入状況は、平成23年度では22市町村259館でした。全国でもすべての都道府県が加入しています。わずかな掛け金で公民館活動中の事故補償ができます。

問い合わせは 県公連 025-266-7711

エコー保険サービス 0120-636-717

雪国のきずな

妙高市社会教育委員 松永 久子

この冬は、近年稀にみる豪雪でした。除雪中、不幸にも事故にあわれた方もいらっしゃいました。来る日も来る日も雪との戦いに体調を崩した方も多かったのではないのでしょうか。私も痛い腰に無理を重ねての除雪でした。

この冬は、近年稀にみる豪雪でした。除雪中、不幸にも事故にあわれた方もいらっしゃいました。来る日も来る日も雪との戦いに体調を崩した方も多かったのではないのでしょうか。私も痛い腰に無理を重ねての除雪でした。

こうした中で、ご近所の方と声をかけあい、苦勞をねぎらいあいながら、やつと長い冬が終ろうとしています。

そして、雪に耐え芽を出した水仙に、春の喜びを分かち合えるのもまた、雪国のきずながつなぐ人と人との温い心の交流があるからなのです。

除雪は、苦勞も多いけれど流雪溝の時間になれば地域で顔をみて声をかけあう機会が毎日あります。他の家の小さな変化も見つけ易いのではないのでしょうか。

普段からの挨拶や会釈等でいつの間にか、地域のき



新しい活動



意識改革・新潟市職員研修Ⅰ



意識改革・新潟市職員研修Ⅱ

かつて「社会教育の終焉」という本がベストセラーになったことがありました。もう、社会教育は時代遅れという感を持っている人が多くなっています。特に、高齢化社会が現実になった今、お年寄りの趣味や教養にかかる学習とイメージされることが多く、暇な学習ととらえられる傾向があります。この学習が社会教育の代表的な活動であることには間違いありませんが、社会の公的教育としての必要感はありません。本来、寺中作雄構想が唱えていた社会の民主化、生活の向上・近代化などは全国で支持されましたが、近年では生涯学習の定着などで、個人の学習が重点に置かれるようになりました。その結果、地域社会の必要に応じた必要課題学習にあまり意識が回らなくなっているのではないのでしょうか。

本来、私たちの社会教育の目的は個人の学習支援と社会の構成員としての人材育成にあります。社会人としての人材育成の面が弱まっているのではないのでしょうか。

(2) 子どもたちの問題点を学校では解決できない

今の子どもたちは問題点を多く抱えています。我慢強さが足りない、道徳心に欠ける。他人と仲良く接しられない、社会性に欠けるなど。このような問題を解決するために新しい学習指導要領では義務教育において宿泊を伴う体験学習を義務づけるに至っています。一時は、学力、体力とも低下して国でも「ゆとり」教育の転換を図りました。学力向上は親の悲願でもありますから、学校では3学期制から2学期制に移行し、長期休業を短縮したり、始業式・終業式に授業を始める学校が多くなってきました。休業中に補習学習をする学校も多くなりました。このように学力向上には躍起になっていますが、子どもたちの学習を学校だけでやるという発想自体が間違っていないのでしょうか。

確かに社会教育は学校教育以外の教育活動を行っています。学社融合という考え方が進歩しないのは学校関係者だけでなく社会教育関係者も子どもの学力向上には学校であろうと家庭であろうと地域であろうとそれぞれが行うことは当然ではないかという考え方に至らないのではないのでしょうか。枠を超えられない大人に従う子どもたちがかわいそうです。

(3) たとえば英会話教室を公民館で

大人向けの英会話教室は多く見られますが、小学生に必修になった英語を公民館事業でなぜやれないのでしょうか。国語や算数は学校の授業時間で優先的に成されなければならない教科ですが、英会話は違うのではないのでしょうか。中学校からの必修を小学校からにしてもべらべらとしゃべれるはずもないと思います。もっとやりたい子どもに地域の教育力を活用して社会教育でやればよいと思います。

(4) これからどうするか

今、公民館が社会的な存在感を失いつつあるとしたら、公民館や社会教育行政が社会の教育ニーズに応えられていないと言うことではないのでしょうか。現代で、社会的問題が山積みしている中でそれに応えられなかったら、それはこれまでのやり方にとらわれすぎて固定化しているのではないのでしょうか。それぞれの展開に決まり切ったやり方などないという認識を持つべきであると思います。

次の機会に、公民館の評価と進むべき方向について述べたいと思います。

特集

公民館の



事務局長 田原 理

1 会長、副会長の退任

平成23年度末に会長、副会長が定年等で退任しました。県公連の役員規約では、上越地区、中越地区、下越地区、新潟市の4つから選出された代表が会長、副会長になっています。平成23年度までは上越地区が会長職、他地区、市は副会長になって当会の運営に当たってきました。

このたび、23年度末をもって退任される方を次に紹介します。

大塚会長、和田副会長、鈴木副会長が退任

平成24年度人事異動のため、大塚美光会長（上越市公民館）、和田明彦副会長（新潟市中央公民館）と鈴木昇副会長（長岡市中央公民館）が退任することになりました。後任は5月25日（金）開催の理事会、評議員会で決定します。新会長、副会長は6月号で紹介します。

〈大塚美光会長退任の言葉〉



このたび、定年により退職いたしました。県公連では会長を1年務めさせていただきました。短い間でしたが、県内の役員、事務局の皆様からご指導、ご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。県公連、県内公民館の皆様の益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

〈和田明彦副会長退任の言葉〉



このたび定年退職いたしました。県公連副会長として3年間務めさせていただきました。その間、平成22年に開催した県公連60周年記念大会の主管をさせていただいたことが最大の思い出です。皆さまの益々のご発展を祈念いたします。

〈鈴木昇副会長退任の言葉〉



このたび、「監査委員」に異動いたしました。来年度に中越地区で行われる関ブロ公民館大会を前に異動になり複雑な思いです。大会の成功と県内各地区の公民館のご健闘を心から祈念申し上げます。

*

3人の役員の方々には理事会、評議員会の運営を始め、県公連の発展のために多大なご尽力をいただきました。深く感謝申し上げます。

会長団4人のうち3人が退任することになり、会の運営に少なからず影響が出ることは否めませんが、後任の役員の方々から円滑に役職を引き継いでいただき新年度のスタートを切りたいと思います。

2 新年度の喫緊の課題は「県大会糸魚川大会の成功」と「関ブロ大会開催1年前準備」

①県大会糸魚川大会7/20の成功

②関ブロ新潟大会開催1年前の準備です。

① 県大会糸魚川大会は7月20日（金）に糸魚川市で開催されます。

3月30日（金）に第1回の実行委員会が開催され、開催のための組織と分担を決定して実質的な開催準備が始まりました。

事例発表は上越地区をのぞく各地区（中越1、下越1、新潟1）が発表をすることになっています。

今後は、講演会講師を早急に決定しなければなりません。

② 関ブロ大会準備

先月号でお知らせした講演の内容ですが、今までの大会にはないユニークなものを予定しています。前例のないやり方ですので、不安がありますが参加者へのインパクトは大きいと思います。

〈前半〉上越市の社会教育委員・公民館運営審議会委員の皆さんの寸劇

現役の委員の皆さんから ①合併で公民館の活動が良くなった？ ②社会教育委員と公民館審議会委員を兼ねているがメリットはあったのか？

などを寸劇風にして問題提起します。（約20分）

〈後半〉雲尾周（新大准教授）講師から前半の問題提起を受けて、まとめの講演をしていただきます。（約1時間）

・2日目の分科会の分担は前回お知らせしたとおりです。

（上越地区1、下越地区1、新潟市2）

3 公民館の新しい活動を考える

新年度がスタートするにあたり、私が普段考えている「公民館の新しい活動」を述べてみたいと思います。

（1）昔と今の違い

実践記録

169

シリーズ

『主催事業:チャレンジわんぱく』 ～自然体験活動を通して、真にたくましい子どもたちを育む～

新潟県少年自然の家 副参事 梁川一十男

◇はじめに

「わんぱくでもいい、たくましく育てほしい」とは、70年代に流れた某食品会社のCMです。

しかし、この言葉に込められた願いは、子どもたちを取巻く様々な環境の変化から、近年ますます意義を増してきたのではないのでしょうか。

◇自然を相手に3回のチャレンジで心身を鍛える

県少年自然の家では、当所をベースに地域の活動スポットを加え、小学4～6年生を対象として、主催事業『チャレンジわんぱく』を行っています。

年3回シリーズのこの事業は、自然体験を通して子どもたちの身体的なたくましさだけでなく、何事にも挑戦する気持ちや他を思いやる心、集団生活でのルールやマナーに対する意識の高揚を主なねらいとしています。

次に、それぞれの回の様子についてご紹介します。

夏：ファーストチャレンジは海をめざして

夏休み、県下各地の小学校から集まった子どもたちは、最初少し緊張気味です。しかし、アウトドアクッキングやキャンプファイア等、活動を通して次第に打解け、グループごとにテントで就寝する頃には、みんなすっかり仲良しになっていました。



次の日は、メインイベントのカヌー体験。パドル練習から川に漕ぎ出すあたりはおっかなびっくりですが、それもすぐに慣れ、日本海のうねりをもものともせずに、思いっきりカヌー活動を楽しみました。

秋：セカンドチャレンジは山のいただきへ

10月上旬の週末に行われた2回目は、自分の手でおやつを作るバームクーヘン作りからスタートです。敷地内で切り出した竹を必要な大きさや形状に細工し、ホットケーキの素を何度も重ね塗りして焼

きあげました。

「本当にこれでバームクーヘンができるの?」と、最初は半信半疑だった子どもたちも、すばらしい出来栄に感嘆の声をあげていました。そんな中、「お土産に持って帰って家のみんなに食べさせたい。」という子どもたちの声を聞き、とてもうれしい気持ちになりました。

次の日は、メインチャレンジの大峰山登山です。日本一小さな櫛形山脈に属するこの山は、標高399.5mですが見晴らしもよく、山頂で食べたおにぎりのおいしさに、みんな思わず舌鼓を打っていました。

冬：ラストチャレンジは雪と友だちに

年が明けた1月半ば、最後の挑戦にわんぱくチャレンジャーが集合しました。どんど焼きや餅つきを体験して日本の伝統的文化に触れ、2日目は胎内スキー場で、思いっきりスキーを楽しみました。



子どもたちの半数以上がスキー初体験でしたが、地域のスキークラブの協力を得て少人数指導を行い、終了する頃にはみんな自信たっぷりに斜面を滑り降りていました。

◇終わりに

3回を通して一番多い子どもたちの感想は、「最初不安だったけど、みんなとすぐに仲良くなれてよかった。」「違う学校の友だちがたくさんできた。」ということです。知らない者同士がコミュニケーションを通して人間関係を深め、集団宿泊体験からマナーやルールの大切さに気付いて社会性を身に付ける。

これからの社会を担う子どもたちにとって大切な経験が、この主催事業には凝縮されていると自負しています。

小国から元気と

笑顔を発信!

わらぼうし

私たちは、長岡市小国地域で踊りが大好きな仲間が集まって二年前に結成されました。

毎月二回、小国公民館に集まり、踊りの練習や寸劇等のアレンジ、お茶会をしたりして交流を深めています。昨年からは、ギターとフルートの奏者も加わり演目がさらに充実しました。踊りや寸劇に使う衣装やお面は、揃いのハッピの他、古着や端切れを使って縫い直したり、風呂敷や雑貨を使って手作りしています。その成果は、地域で行われるお祭り、高齢者の集いや施設で発表したり、今では、依



頼を受けて、柏崎市や小千谷市へも出向き、踊りや寸劇や演奏を披露しています。

これからも、元気と笑顔を小国から発信していきたいと思っています。

長岡市・わらぼうし
代表 磯野小夜子 記



絵画教室における
グループ活動

村上市 絵画教室

市の公民館で行われている絵画教室は、月二回夜七時から九時まで、年間を通して活動しています。講師の先生は一人一人こと細かくアドバイスをしてくれます。出席者は職業や年齢など関係なく、同じ

趣味を持つ皆で楽しく描いています。絵の種類は主に油彩や水彩画で、中には五十号の大作に挑戦している人もいます。毎年、作品は市展や地区の美術展へ出展し、その後、文化会館等の施設に展示していただいています。また、新潟市で行われる新春三大美術展の鑑賞や日帰りスケッチツアーを行っており、今年も岩室のハサギスケッチツアーを計画しています。今後も、誰でも気軽に参加できるサークル活動を目指していきます。



村上市朝日地区

公民館絵画教室
横山ナツ子 記

中央公民館のアイドル、トモちゃんこと大久保朋美さんをご紹介します。

中央公民館に配属になり今年で3年目、成人講座、高齢者学級の担当として、日々奮闘中です。特技は、お菓子作りと大学で専攻していたピアノ。私のためだけに??作ってくれるお菓子の味は最高です。

公民館をまんべんなく照らす笑顔、そして私の無理難題も笑顔で引き受けてくれるト

十日町市中央公民館
主事 大久保朋美さん



モちゃん。そんなトモちゃんが大好きです。お酒を飲み過ぎるとお互いちょっとお茶目になりますが、これからも公民館を盛り上げていきましょう。

(十日町市中央公民館 柳 昌光 記)

素顔
拝見

先般のスノーシュートレッキング教室では、降りしきる雪に髪の毛が凍りつくのも何のその、懸命に歩き、講師の説明をうなずきながら聞き、時には笑顔さえも浮かべていました。

この様に、教室が開催されますと、熱心に参加し、学習も進めている彼女です。

主催事業の切り盛りの他にも超多忙な仕事をこなしています。

それは、併設されている図書室の新刊受け入れ事務から貸し出し・返却作業までやっています。ですので、机上は新刊本はもち



魚沼市守門公民館
主事 平井 裕美さん

ろん、返却本などがいつも山積みとなっています。同時に、公民館の部屋はもちろん、4つの体育館や3つのグラウンドの貸し出し業務まで多彩な仕事が入っていますが、「忙しい」など弱音を言った事が一度もありません。本当に頼りになる立派な主事さんです。今後の益々の活躍を期待するばかりです。よろしくお祈りします。

(魚沼市守門公民館長 横山治隆 記)

平成23年度の新潟県「社会全体で子どもをはぐくむ運動」の事例集である「はぐくみネットワーク第7集」が発刊されました。第6集までと同様、県内の様々なグループの活動が写真と共に紹介されています。

家庭や地域の教育力向上を図るために展開されている学習活動、実践活動が114ページの中に上、中、下越別に24事例が



紹介されています。また、新潟県地域家庭教育推進協議会の委員の方が家庭教育に関する自らの思いなどをエッセイ風に書いたものが挿入されています。

新潟県地域家庭教育推進協議会
 新潟県教育委員会
 〒950-0185 70
 新潟市中央区新光町4番地1
 電話 025-285-5511 (代表)

恵贈資料紹介

「はぐくみネットワーク第7集」

発行 新潟県教育委員会編

ていて、親しみやすく興味深い内容になっています。

問い合わせ

新潟県地域家庭教育推進協議会

新潟県教育委員会

〒950-0185 70

新潟市中央区新光町4番地1

電話 025-285-5511 (代表)

お元気ですか

信田 節子 (燕市)



仕事をしていた頃は、自分のやりたい事がなかなかできずにいたので、退職後の生活は今までの非日常が日常となり、「バラ色の人生が待っている!」と思っていました。

とにかく解放気分いっぱい、当初はサスペンスドラマやランチに映画鑑賞、デパートめぐりや旅行など、一通り友人達に誘われるままに忙しく楽しい毎日を過ごしました。

そしてふと数十年前に習っていた料理や茶道をもう一度始めたくなり教室を訪ねたところ、あの頃と変わらぬ先生と再会し、あっという間にタイムスリップして「戻って来て良かった」と思いました。

さらに今まで時間に追われていた家事労働までもが楽しいものだと思えて、時間にゆとりがあることの幸せをこの日常で感じました。しかし一方で地域・学校でのお手伝いが日に日に増えて仕事をしていた時と変わらぬ忙しさに時間のゆとりとの調整がうまくいかず、泣きそうになったこともありましたが「ゆとりだけでは早くボケてくるのでは?」という家族の助言もあり、この状況を前向きに捉えられるようになりました。このバランスを崩さないように、非日常が日常に変わった今、充実した日々を過ごしている今日この頃です。

Net work ネットワーク

新潟県立自然科学館事業

- 1 「とやのがたグリーン・フェスタ2012」
～身近なことから自然・環境の大切を考えてみよう!～
4/28～5/6 (5/1は休館 5/5は小・中学生無料)
- 2 「星見のススメ」
～太陽を横切る金星を見よう～
5/27
- 3 「昼間の星を見てみよう」
時間や料金等の問い合わせは 自然科学館 025-283-3331

美しい国土と豊かな環境を未来の世代に

過疎地域には、安全・安心な食料や水の供給、エネルギーの提供、国土の保全、災害の防止、地球温暖化の防止等のほか、都会の人々のやすらぎや教育の場として、国民全体の安全・安心な生活を支える極めて重要な公益的機能があります。

私たちは、過疎問題の解決を国民全体の課題と捉え、継続した対策が必要であると考えています。

新潟県過疎地域自立促進協議会

会長 (出雲崎町長) 小林 則 幸

新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館内

TEL 025(285)0041 FAX 025(285)1609

◆新潟県内の過疎市町村 (14市町村)

長岡市、上越市、柏崎市、十日町市、村上市、糸魚川市、妙高市、佐渡市、魚沼市、阿賀町、出雲崎町、津南町、関川村、粟島浦村

あ と が き

事務局長のつばやき

最近、女子会とか女子力という言葉をよく聞くようになりました。

今の時代、総じて男子より女子の方が元気がいいと言われていますが、ロンドンオリンピックのメダルの話

題も女子の方が断然多いようです。

家庭や職場ではいかがでしょうか。私などは女子に言い返す気力もなく

ひたすら下を向いて仕事をしています。ともあれ、新年度の始まり。元気出していきましょう。